

6 - 1 3 2 - 0

(包紙)

元和三年より元禄九年迄竹嶋渡海之砌鉄炮数

拾挺所持之所嶋渡御制禁被仰出付當

御城江差出御宝庫入相成候趣旧記有之處此度御取調

之上竹嶋筒七挺入一箱御自分手より御返シ被仰付旨御老役

熊沢環様より御書ヲ以被仰渡、右鉄炮七挺難有請取申上候

御書附入 明治二年巳十一月九日 勝廣

付り 御自分御上江御請御礼之義相伺候上急々

御飛脚便有之趣三而御老役仮職中村貢人様充として

差出御披露状案詞在中

又市政御役筋へ右竹嶋筒御返之分受取申上候事

6 - 1 3 2 - 1 - 0

「御書附」

6 - 1 3 2 - 1 - 1

大谷九之平

其方先祖往昔竹嶋

渡海致し候節相用候

旨を以小銃七挺先年

亡父新九郎より献上致し

御武庫入相成居候處

此度奉願趣有之尤之

厚意付願之通り

御返し被遣候、全く

先祖之英功相備り

居候重器候得者永く

家宝致し子孫江持

伝へ可申旨被

仰出候